

## 発行所

一般社団法人 埼玉県電業協会  
〒338-0031 さいたま市南区  
西予4-1-7(建設連合会館内)  
TEL 048(864)0385  
URL <http://www.saidenkyojo.jp/>  
E-mail kyoka@saidenkyojo.jp

# 彩の耀

第181号

平成29年11月1日発行  
発行人 田村一巳  
編集人 広報委員会  
(委員長 市之瀬正晴)  
監修 日本工業経済新聞社  
(埼玉建設新聞)

## 日々“安全文化”的継承を 平成29年度 安全大会を開催



田村会長

7月5日、建産連研修センターで、平成29年度安全大会を開催しました。埼玉労働局労働基準部健康安全課の塩野七重課長が安全衛生活動について講示。また㈱建設経営サービスから監理技術者講習専任講師の相蘇淳一氏を講師に迎え、「もしも、あなたの現場で災害がおきたら!~いざという時にあわてないために~」をテーマに安全講話を実施しました。

田村会長は開催にあたり、働き方改革について触れ、「労働生産性が上がらないまま、休日を増やし、時間外労働を減らせば、我々中小零細企業の経営は成り立ちません。現場での安全軽視につながらないか」ということも危惧されます。建設工事は現場で働く1人ひとりの力で支えられているわけです。もちろん工事は施工状態によって、刻一刻と変化するわけですから、安全の確保にも当然関わってきます。あってはならないことですが、安全ルールを無視、あるいは端折っては、現場の安全確保はできません。とにかく安全を第一に仕事をお願いしたいということです」と、各企業における管理の徹底を要請しました。

講示で塩野課長は、平成28年の管内における建設工事中の死亡災害が6人と、前年から9人減少したことについて、企業、関連団体の安全教育の徹底による成

果として評価しました。しかし、ことしに入ってから、死傷災害、墜落・転落事故が再び増加傾向にあることを危惧。その上で、「日々の仕事の中で、こうすれば安全だ」という常識を持っておられると思います。この安全の常識が安全文化です。この文化をこれからもぜひ継承していただきたい」と述べられました。

引き続き、相蘇氏が安全講話を実施。いざというときに、あわててしまい、正確な状況を忘れてしまうなどを防ぐため、実用的に使える対応マニュアルの作成を指導しました。全国で5万人の監督者が使用中で、保存版としても活用できるものです。相蘇氏は「建設業で働く人は、関係法令を理解した上で、安全管理を行わなければいけないというのが私のポリシー。事故が起きたら絶対に後悔する」と、企業、個人が受けけるダメージについて、実例を挙げて紹介しました。



講師の塩野氏



講師の相蘇氏



労働災害発生時の対応を学んだ

## 災害復旧対策講習で、東日本大震災を振り返る

9月7日、災害復旧対策講習会を建産連研修センターで開催しました。参加者は約70人。第1部では㈱ユアテック電機設備部工事管理グループの櫻戸陽祐副部長を講師に迎え、「東日本大震災を経験して分かった課題と復興事業について」をテーマに講演していただき、第2部では、町田浩征事故防止対策委員長が災害時の連絡網として、ＬＩＮＥの活用を提案しました。

講習を前に田村会長は「東日本大震災から6年半が経ちました。震災の記憶が風化してしまっては、犠牲になった人々が浮かばれません。また、震災の経験が次に生かされることもありません。櫻戸副部長から、震災の貴重な体験談をお聞かせいただき、勉強させていただければと思っています」とあいさつを述べました。

第1部では、櫻戸副部長が震災発生後の体験談や、津波被害に遭った被災地などを事例に、災害復旧の課題として、仮設電源をはじめ災害時に必要なものなどを挙げ、具体的な対応策を述べました。災害発生後のライフラインの復旧に最優先すべきものとして、「電気

工事業が果たすべき役割は非常に大きい」と話し、復旧の担い手としての責任の重さを強調しました。

第2部に移ると、町田委員長が「災害時におけるＬＩＮＥの活用について」と題し、災害時の連絡手段の1つとしてＬＩＮＥの活用を提案しました。町田委員長は「提案だけで終わらせず、いつ起きるか分からない災害に備え、少しでも前に進みたいと思っています」と話し、ＬＩＮＥを活用した緊急時の連絡網作りに意欲を見せました。

当協会では、講習会を機にマニュアルの内容を再確認しており、災害発生時の初動や注意点などを共有することで、災害復旧のための体制強化に努めています。



電気工事業の復旧手順を確認

# 長瀬は天下の勝地



長瀬町長

大澤 タキ江

「彩の郷」第181号の発行を心からお喜び申し上げます。

一般社団法人埼玉県電業協会の皆様におかれましては、日頃から電気設備産業の適正な運営と健全な発展にご尽力賜り、社会生活の安定と社会福祉の向上にご貢献をいただきしておりますことに心から感謝申し上げます。

「長瀬は天下の勝地」日本資本主義の父・渋沢栄一翁に讃えられた私たちの町は、大正13年国の名勝天然記念物「長瀬」の指定を受け、文人墨客をはじめ、多くの皆様に愛され今日までまいりました。

日本地質学発祥の地でもあり「地球の窓」とも言われておりますが、去る8月19日にはNHK放送の「プラタモリ」において、タレントのタモリさんから絶賛されたことはこの上ない光榮であり、町中が明るいニュースに沸き立った今年の夏でした。

また、9月3日にご婚約が内定された秋篠宮眞子様と小室圭さんが長瀬でデートをされたとの一部報道があったことから、最近は若いカップルが増え、舟下り・ラフティング・かき氷と大変な賑わい様です。

春は桜、夏は水とのコラボ、秋は紅葉、冬はロウバイと、1年を通じてお客様をお迎え出来るのも、町を流れる荒川の清流と渓谷美、山々に囲まれた豊かな自然があるからこそと万物に感謝をし、観光地として育ててくれた先人に心からの敬意を表し、この美しい町を後世に引き継いでいかなければならぬとの思いを強く持ちつつ、町政運営を行っているところです。

「観光地長瀬」というブランドを持ち、他町から羨望の的となっている長瀬町ですが、財政は決して豊かではありません。埼玉県下ではワースト

1・2という状況であり、むしろ大変厳しいというのが実状です。私は議員時代、職員に「金がなければ智恵を出せ」と常々言つきました。町長になってからは、「入るをはかりて出するを制す」をモットーとしています。幸い、職員も私の気持ちをよく理解し、行政運営に反映し努力をしてくれていますので、そのうち花が咲くときが来ると思います。

「少子高齢化」これは地方自治体どこでも共通の悩みだと思います。長瀬町とて例外ではありません。特に出生率の低下はどうにもならないというのが現実です。もちろん町としてもあの手この手の方策は講じています。しかし最後は近隣町村とパイの奪い合いになってしまっている気がします。国は各自治体で努力をしろと言いますが、これは国全体で考えていかなければならない問題だと思います。

長瀬町は今年度「第5次長瀬町総合振興計画」を策定しました。「人も社会も自然もすべてが健康ではつらつとしているまち」「はつらつ長瀬」を掲げ、「いつまでも暮らしたいまち・いつまでも活力のあるまち・いつまでも輝き続けるまち」を10年後のまちの姿とし、職員一丸となって日々研鑽を積んでいきます。多くの皆様に愛される「観光地長瀬」で在り続けられるよう、これからも努力をしてまいりますのでどうぞ宜しくお願ひいたします。

結びに、一般社団法人埼玉県電業協会の益々のご発展と会員皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、ご挨拶といたします。

## 国土交通省関東地方整備局営繕部との意見交換会

8月1日、当協会と(一社)埼玉県空調衛生設備協会の主要関係者出席のもと、第2回企業対策セミナーで講師を務めていただいた県の方々にも同席いただき、国土交通省関東地方整備局営繕部との意見交換会を開催しました。

冒頭、営繕部の三ツ木浩剛官庁施設管理官より、日々の理解・協力に対して、お礼の言葉をいただき、その後は『営繕工事の円滑な施工確保対策』の効果について、4項目を中心に入意見交換が行われました。

特に注目されたのは、国で始められた「余裕工期の設定」についてです。毎年、年度末に集中することを考慮し、2、3月に契約をした工事について4月以降に取り掛かるようにし、技術者の配置は工事着手時点

とするとの説明がありました。

これに対し、業者側としては「4、5、6月に技術者が充てられるのはありがたい」など、とても有効性のある設定であるとの意見がありました。この他、等級拡大、早期発注の推進、営繕工事発注情報提供の工夫について、活発な討議がありました。

毎年このような意見交換の場を持ち、今後も理解度を深め合うことを確認して、会議を終えました。



円滑な施工求め意見交換する

## 第1回災害時応援ネットワーク会議を開催

7月18日、埼玉会館にて埼玉県危機管理防災部消防防災課との第1回災害時応援ネットワーク会議を開催しました。これは毎年、災害復旧対策講習会時で、県の体制について説明していただいている内容から一步深め、双方の体制と問題点などについて意見交換を行い、理解し合うことを中心に話し合い、より良い関係づくりを目的とした会議です。

先に、埼玉県の防災体制について資料とともに詳細な説明を受けました。その中で、災害時応援協定締結団体や事業者が増えていることに対し、県としては、「それぞれとの“顔が見える関係”をつくり、ワンランクステップアップをしていきたい」「要請がなくても災害救助法適用となったら実施体制を整えていただきたい」などの話しがありました。当協会では、県との防災協定に基づき、9月更新で作成している災害実働マニュアルを資料として、会員内の体制について説明を行いました。

意見交換では、全国的な応援体制について質問があり、神奈川県電業協会、千葉県電業協会との3県応援協定や、山梨県、静岡県との協定について説明を行いました。常に問題視されているのが非常時の連絡方法であり、小型無線、衛星携帯など、手段はいくつもあるとよいが、確実なものを模索していることを伝えました。県からは、リエゾン派遣についての要請があれば可能かと問われ、協会としても可能と思えるとお答えしました。

今後も双方の問題点を解決し、お互いの関係が分かり合えるよう、次回につなげていきたい思いを伝え合い、2時間の会議を終了しました。



連携強化へ理解深める

## 営繕工事の円滑施工へ企業対策セミナー

空衛協会と共に

当協会と(一社)埼玉県空調衛生設備協会の共催による平成29年度第2回企業対策セミナーが8月1日、さいたま新都心のラフレさいたまで開かれ、県と国土交通省の職員を講師に招き、両協会の会員約60人が聴講しました。

開会に先立ち、岡村会長は講師4人を紹介。来訪への謝辞を述べるとともに「公共工事を行う上での注意点などについて勉強させていただきたい」とあいさつしました。

県の講演では、はじめに県土整備部建設管理課の仲宗根克子主幹が建築工事積算基準の改正などについて説明。20年ぶりの改定となった一般管理費等率のほか、設計変更ガイドラインなどについて紹介しました。

次に都市整備部設備課の田島和彦主幹が、設備工事施工のポイントについて具体例を挙げ説明。改修前後の比較のために工事前の既存設備を記録することの重要性などを話しました。

国交省の講演では、関東地方整備局営繕部の2人がそれぞれ登壇。三ツ木浩剛官庁施設管理官からは、円

滑な施工確保に向けた各種取り組みについて、実績要件の緩和や設計変更による無理のない工期設定などが説明されました。

引き続き地土文信技術・評価課課長補佐は、競争参加資格申請書作成時の留意事項について、営繕事務所のWEBページを参考に、申請書に添付する図面など書類作成上の注意点を詳しく解説しました。



仲宗根氏



田島氏



三ツ木氏



地土氏



両協会の会員約60人が聴講した

## 埼玉県認定 職業訓練 消防設備士甲種4類受験準備講習会

事  
主  
業  
要

6月19日、26日、7月3日の3日間、建産連研修センターで、消防設備士甲種4類受験準備講習会を実施しました。参加者は15人。講師をS E E D O代表の関根康明氏が務め、自動火災報知設備に関する内容を中心に講義を行いました。

3日間のメニューは、消防設備士受験ガイド、法令の基礎知識、消防関係法令の基本問題、構造・機能関係の基本問題、自動火災報知設備の設置、警戒区域の設定方法、製図問題などで構成。

ホテルなどの建築物は、用途、規模、収容人員に応じ、屋内消火栓設備、スプリンクラー設備、自動火災報

知設備などの消防用設備、または特殊消防用設備などの設置が法律により義務付けられています。

これらの工事、整備、点検には、消防設備士の資格が必要です。また新しい知識や、技能の習得のため、定められた期間内ごとに都道府県知事が行う講習会の受講が必要となります。

4類では自動火災報知設備の配線図や系統図を理解するとともに、感知器の設置場所の適否などを判別できなければなりません。



講師の関根氏

技能講習

## 安全責任の重要性など徹底

### 酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習

事  
主  
業  
要

7月13、14日、15日、17日の4日間にわたり、酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習を建産連研修センターで開催しました。現場の安全を守る作業主任者の責任と役割の重要性について指導を受け、徹底しなければならない具体的な対策・対処法を学びました。

3日間の講習では、東京労働基準協会連合会などで講師を務める久保田隆一氏、ケイ・教育企画サポート事務所代表の小泉一夫氏、土戸労働衛生コンサルタント事務所代表の土戸善博氏、(株)重松製作所の久米史郎教育部長付主任部員、(有)エコ・セフティの吉野巖営業本部長の5人が講師を務めました。

酸欠状態が90秒続くと脳へのダメージが心配されま

す。酸欠による労働災害は発生件数が少ないものの、直接死亡災害につながりやすく、後遺症を残す可能性が高いとの報告があります。

事故発生現場では酸欠に気付かず、助けに行つた人も巻き込まれる2次災害の危険性もあります。講習ではカリキュラムに基づき、危険を未然に防ぐ対策とともに、危険に身を置いたときの対処法を習いました。

講習後の修了試験には、受講者24人全員が合格し、後日、修了証が渡されました。



講師の久保田氏

## 建設産業担い手確保・育成事業（県補助事業）受験準備講習会を開催

### 電気工事施工管理技士

#### 傾向探し合格目指す

##### ■1級電気工事施工管理技術検定試験受験準備講習会 (実地コース)

9月6日、13日、20日、27日の4日間、1級電気工事施工管理技術検定試験受験準備講習会（実地コース）を建産連研修センターで開催しました。講師はケイ・教育企画サポート事務所代表の小泉一夫氏。出題傾向の予想のもと、模擬試験で解答能力を養い、きめ細かな個人別学習指導を行いました。

小泉氏は「学科試験合格の全国平均は48%ですが、協会員の方は20%近く上回り、優秀な成績を収めました。皆さんは会社でも現場でもどうしても必要な方々です。期待される中、せっかく学科を合格したのですから、できれば実地も1回で突破しましょう」とあいさつしました。

4日間にわたり、毎回模擬試験を行い、解答の添削、個人別学習指導などを実施。試験問題の傾向を探り、受講者に合わせて対策を講じました。



きめ細かな学習指導を行った

### 電気工事士

#### 試験合格へ実技磨く

##### ■第二種電気工事士試験受験準備講習会 (技能コース)

7月11日、12日の2日間、第二種電気工事士試験受験準備講習会（技能コース）を建産連研修センターで開催しました。講師はR I C代表の渡邊一雄氏。大きく変わった新技能試験の概要、試験当日のスケジュールなどを確認した後、重大欠陥を招かずに試験に合格するためのコツが伝えられました。

2日で13問を習得。材料を見て問題を理解することや、単線図を見ただけで作業ができるよう訓練。参加した受講生は、用意されたケーブルなどの部材を使って、本番さながらの作業をこなし、合格へのポイントをつかんでいたようです。



講師の渡邊氏



合格への近道となる実技指導を受けました

## 越谷の鴨場をご存知ですか？

株式会社大久保電気 代表取締役 大久保修藏

宮内庁が管轄する「鴨場」は、越谷市にある「埼玉鴨場」と千葉県市川市にある「新浜鴨場」の2ヶ所にしかありません。

なぜ埼玉の越谷市に「鴨場」があるのかというと江戸時代、越谷には鷹を使って猟を行う鷹場がありました。明治時代になると、越谷を含む地域が、皇室専用の御獵場として指定されました。明治41年に、都内の浜離宮に飛来する鴨が少なくなってきたことや、交通のアクセスも良かったことから、現在の越谷市の大林に埼玉鴨場を開設したとされています。

埼玉鴨場は約12ヘクタール、東京ドーム2.5個分ほどの広さがあり、樹木や草花などが生い茂る緑地帯です。中央には元溜<sup>もとなき</sup>という1ヘクタールほどの池があり、毎年8月の終わりから、翌年の5月まで約3000羽を超える渡り鳥がやって来て生息します。

鴨場は、毎年11月の半ばから、翌年2月半ばまでの期間、各国の外交使節団の長をはじめ、閣僚、国會議員、最高裁判所判事等が招かれ、鴨猟が行われます。

鴨場で行われる鴨猟は、江戸時代から大名家に伝わる伝統あるものです。叉手網<sup>さあわ</sup>という網を使うことで、鴨を無傷のまま捕獲することが出来ます。捕獲した鴨

は、国際鳥類標識調査に協力して標識（足環）をつけ、種類や性別などを記録した後に、すべて放鳥しています。

ちなみに、越谷特別市民「ガーヤちゃん」は埼玉鴨場にちなんだ「鴨」と越谷特産のねぎにちなんで作られた「こしがや鴨ネギ鍋」のマスコットキャラクターとして誕生した埼玉鴨場のある越谷市ならではのキャラクターです。

毎年、越谷市民を対象に越谷市が見学会を行っていますが、今年から国民を対象とした見学会を宮内庁が、県民を対象とした見学会を埼玉県が開催しております。

興味のある方は各ホームページで確認してみてください。



越谷市にある宮内庁の埼玉鴨場

## 利益重視の改訂内容学ぶ

6月21日、(株)ISO審査登録機構の審査員である須田悟氏を講師に招き、ISO規格解説に関する研修会を建産連研修センターで開催しました。参加者は19人。第3世代の2015年版では、利益の考え方を重視。将来のニーズや期待に応えたパフォーマンスを追求することで、顧客要求を満たすための取り組みを強化する狙いを持ちます。

須田氏は「ISOが現場の改善につながらない会社が多くみられるが、現場を改善するためのものであることを、1人ひとりがよく理解しなければ」と述べ、内容の把握を求めました。

今回の研修では、ISO9001(品質マネジメントシステム)と、14001(環境マネジメントシステム)の15年版規格要求事項として、第3世代のモデルチェンジ共通部分について解説されました。

具体的には、改訂度合の大きいモデルチェンジ部分、度合の小さいマイナーチェンジ部分、あまり変わっていない部分―の各段階に分け、見解を示しました。

## ISO規格解説で研修開く

考え方の中心的な部分を占めるのは、継続的な改善を目指す事項。経営者や管理職など、部門別のリーダーシップの力量次第で、P D C A (Plan: 計画、Do: 実行、Check: 点検、Act: 改善) の内容も変わると説明されました。

参加者は企業の伸びしろや、成長の余地を見出す仕組みを学び、個々の会社で生かす方法を探りました。



講師の須田氏



ISOの第3世代について解説

## 電業協会今後の【行事予定】

行 事 内 容	日 程	行 事 内 容	日 程
低圧電気取扱者特別教育	11月6・7日	婚活イベント	11月26日
第一種電気工事士試験受験準備講習会	11月8・15・22・29日	電業業界出前授業(仮称)	12月1日
会員大会	11月10・11日	第2回技術講習会 「電気設備工事施工計画の作成方法」	12月6日
高圧・特別高圧電気取扱者特別教育	11月13・14日	賀詞交歓会(予定)	1月18日(予定)
県庁オープンデー出展	11月14日		

埼玉県電業協会では、毎年2回の技術講習会を行っています。この講習会へは、官公庁の技術職の方へもご通知し、最新の電気設備に関する技術の習得のため、学んでおります。ご興味のある方は、是非ご参加いただきますようお願いいたします。

## 協会のうごき

**7月**

- 5日 安全大会  
第2回事故防止対策委員会
- 11日 第3回人材育成委員会
- 18日 第4回協会理事会  
第1回収益事業役員検討会議

**8月**

- 1日 第2回企業対策セミナー
- 22日 第1回加入促進特別委員会

**9月**

- 7日 災害復旧対策講習会  
第4回人材育成委員会
- 19日 第6回協会理事会

**10月**

- 17日 第7回協会理事会

**28日 登録電気工事基幹技能者認定講習****29日 "**

### 建設産業担い手確保・育成事業

足場の組立て等作業主任者技能講習	7月6・7日
第二種電気工事士試験受験準備講習会(技能コース×2回)	7月11・12日
酸素欠乏・硫化水素危険作業取扱主任者技能講習(全3回)	7月13・14・15又は17日
第一種電気工事士試験受験準備講習会(筆記コース×5回)	8月25日、9月1・8・15・29日
I級電気工事施工管理技術検定試験受験準備講習会(実地コース・さいたま×4回)	9月6・13・20・27日
新入社員フォローアップ研修	9月26・27日
2級電気工事施工管理技術検定試験受験準備講習会(全5回)	10月4・11・18・25日、11月1日

### 埼玉県認定職業訓練

1級電気工事施工管理技術検定試験受験準備講習会(実地コース・熊谷×4回)	9月2・9・16・30日
--------------------------------------	--------------

### (一社)埼玉県電業協会会員

支部長○ 副支部長○

#### さいたま支部 (13社)

- 旭電気工業(株)(大宮区)
- 浦和電気工事(株)(南区)
- 大塚電設(株)(浦和区)
- (株)岡村電機(緑区)
- 国益電設工事(株)(南区)
- 埼玉電設(株)(中央区)

#### 新生電気工事(株)(見沼区)

- 竹内電気(株)(岩槻区)
- (株)横田電業社(浦和区)
- 中村電設工業(株)(岩槻区)
- (株)万代電気工業(桜区)
- 瑞穂電設(株)(北区)
- (株)八洲電業社(北区)

#### 東部支部 (12社)

- (株)内田電気商会(久喜市)
- (株)大久保電気(越谷市)

#### (株)三進電気工事(上尾市)

- 島村電業(株)(上尾市)
- (株)新電気(三郷市)
- (株)大広電気(八潮市)
- 太洋電設工業(株)(越谷市)
- (株)高岡電気工業(松伏町)
- ニチテン技術サービス(株)  
(北本市)
- 野口電気工事(株)(越谷市)
- 深井電気(株)(北本市)
- (株)弓木電設社(白岡市)

### 西部支部 (19社)

- (株)新井電機(飯能市)
- 飯島電器工事(株)(川越市)
- (株)市之瀬電設(志木市)
- (株)大庭電気商会(川越市)
- (株)岡島電気商会(川越市)
- (株)おぎでん(川越市)
- 熊田電気工事(株)(狭山市)
- (株)三共電気商会(和光市)
- (株)関根電気商会(川越市)
- 相馬電業(株)(和光市)
- (株)電成社(川越市)
- (株)中村電気(新座市)
- 橋電(株)(所沢市)
- (株)橋本電工(所沢市)
- フジヤ電気工事(川越市)
- (株)北産電設(所沢市)
- (株)まつもと電機(和光市)
- (株)明電社(川越市)
- (株)ヤマト・イズミテクノス  
(ふじみ野市)

### 北部支部 (15社)

- イーテクノス(株)(熊谷市)
- (株)イートラスト埼玉(行田市)
- (株)エコー(深谷市)
- 共和電機(株)(秩父市)
- 熊谷電機(株)(熊谷市)
- (株)栗原電機(深谷市)
- 霜田電気(株)(皆野町)
- 中外電気工業(株)(深谷市)
- (株)東電工業社(熊谷市)
- (株)長井電機(熊谷市)
- (株)沼尻電気工事(深谷市)
- (株)早川電工(鴻巣市)
- 松山電設(株)(東松山市)
- ムサシ電機工業(株)(行田市)
- (株)躍進電気(深谷市)

### 南部支部 (9社)

- 内山電設(株)(川口市)
- (株)奥富電気工事(川口市)

### 会員企業の定着率向上へ

《中堅技術者》 フォローアップ研修 《新入社員》

### 初心忘れず成長目指す

6月27日、28日の2日間、さいたま市南区の別所沼会館で、平成29年度中堅技術者フォローアップ研修を開催しました。担い手確保の観点から、会員企業の離職率を減らすための取り組みとして、貴重な機会を提供。初日の講師を務めた國實誠氏は、コの字に机を並べ替え、全員に同じ質問を問い合わせることで、集中力を切らせずに指導されました。「顧客の期待値に対して結果を出せれば基本的にはベターなわけです」と、自ら考え発信し行動して何かを残す。一連の流れで答えを導いていく方法論を実践しました。

講師はM&MC合同会社代表の國實氏、SEEDO代表の関根康明氏が務められました。



9月26日、27日の2日間、さいたま市中央区の県男女共同参画推進センターで、平成29年度新入社員フォローアップ研修を開催しました。ビジネスマナー研修を専門とする井島鈴子氏と、SEEDO代表の関根康明氏を講師に迎え、初心を忘れず、基本に忠実な仕事に励み、確実に成長するための再教育を行いました。

内山祥章人材育成委員長は「電気業界、建設業界を担う皆さまあります。今後、2年、3年、5年、10年と続けていくためにも、今一度立ち返って、新たな気持ちで研修を受けていただければ」と、職場で役立つ有意義な研修となるよう期待を込めあいさつしました。

